

2026年度 慶應義塾大学 一般選抜

法学部 日本史

出題の意図及び解答例

<出題の意図>

日本史の出題に当たっては、高等学校の授業科目「歴史総合」及び「日本史探究」における学習を通じて、ある歴史的事象を多様な側面や立場から考察し、さらに、他の歴史的事象との間に存在する有機的な関連性を見出し、総合的に理解する能力を習得しているかどうかを測ることとしている。加えて、記述式解答を求める問題においては、設問の趣旨に即して必要かつ十分なポイントを押さえた上で、的確な表現を用いて論理的に述べることが求められる。

それぞれの問題について、出題の意図は、以下のとおりである。

問題Ⅰ 「崇り」を題材にして古代の政治情勢を説明した文章を読み、歴史的展開を考えあわせながら、天皇家と摂関家の血縁関係や貴族間の勢力争い、政治と学問の関係や学問分野の趨勢、法政策の内容などを問うものである。

問題Ⅱ 感染症と公衆衛生の歴史的変遷について、「歴史総合」で学ぶ内容も踏まえた基礎的な知識を問うものである。暗記的知識のみならず、本文や設問からヒントを得て解答を導く要素も含まれている。

問題Ⅲ 安土桃山時代から江戸時代にかけてのさまざまな歴史的事象のつながりを意識した上で、中央政府の施策や地方社会の制度、国内産業の発展状況、諸外国との交流・交易や諸外国の動向が日本に与えた影響などを問うものである。

問題Ⅳ 若槻礼次郎の回顧録（『古風庵回顧録』）から素材を得て、そこで語られた当時の時代背景をも念頭に置きながら、近代日本の内政と外交に関する理解の深さを問うものである。

<解答例>

問題Ⅰ

〔設問1〕	2	〔設問2〕	3	〔設問3〕	5	〔設問4〕	4	〔設問5〕	1
〔設問6〕	5	〔設問7〕	5	〔設問8〕	4	〔設問9〕	3	〔設問10〕	2
〔設問11〕	1	〔設問12〕	1	〔設問13〕	4				

問題Ⅱ

〔設問1〕	5	〔設問2〕	3	〔設問3〕	1	〔設問4〕	4	〔設問5〕	2
〔設問6〕	1	〔設問7〕	3						

〔設問 8〕 神奈川・兵庫・長崎は、開港場として、人やモノの往来が盛んな港湾都市であり、感染拡大を防ぐためには、国外からのコレラ流入を水際で阻止できるよう検疫を実施し、感染者を避病院に隔離して接触を抑えることが重要であると考えられた。ところが、検疫と隔離を徹底できなかったことに加え、西南戦争の帰還兵が各都市に立ち寄った際に、コレラに感染したり、他の人をコレラに感染させたりしてしまった結果、感染がさらに拡大した。(200字)

問題Ⅲ

〔設問 1〕	3	〔設問 2〕	6	〔設問 3〕	4	〔設問 4〕	3	〔設問 5〕	1
〔設問 6〕	2	〔設問 7〕	1	〔設問 8〕	5	〔設問 9〕	3	〔設問 10〕	4
〔設問 11〕	3	〔設問 12〕	4	〔設問 13〕	2				

問題Ⅳ

〔設問 1〕	6	〔設問 2〕	2	〔設問 3〕	3	〔設問 4〕	3	〔設問 5〕	5
〔設問 6〕	4	〔設問 7〕	2						

〔設問 8〕 大日本帝国憲法は法律について帝国議会の協賛を求めており、政府提出法案の成立には議会の承認が必要であった。アの時期は、桂太郎と西園寺公望が交互に政権を担当したいわゆる桂園時代で、桂が貴族院に、西園寺が衆議院に勢力を持ち、両者が協調していたので成立率が高い。イの時期は、太平洋戦争中という環境もあったが、翼賛選挙の結果、政府を支持する勢力が衆議院の圧倒的多数を占めたことにより、非常に高い成立率となった。(200字)

以 上